

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第13週[3月29日～4月4日]

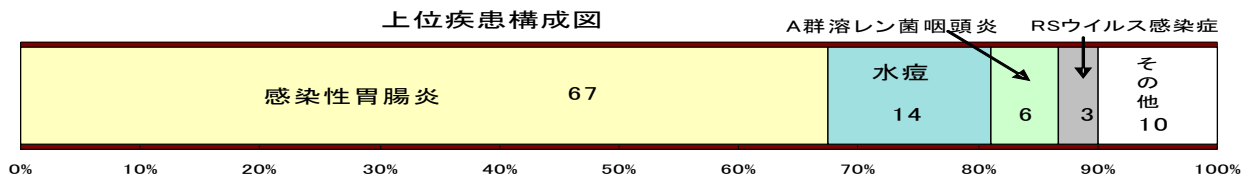
高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 県内情報

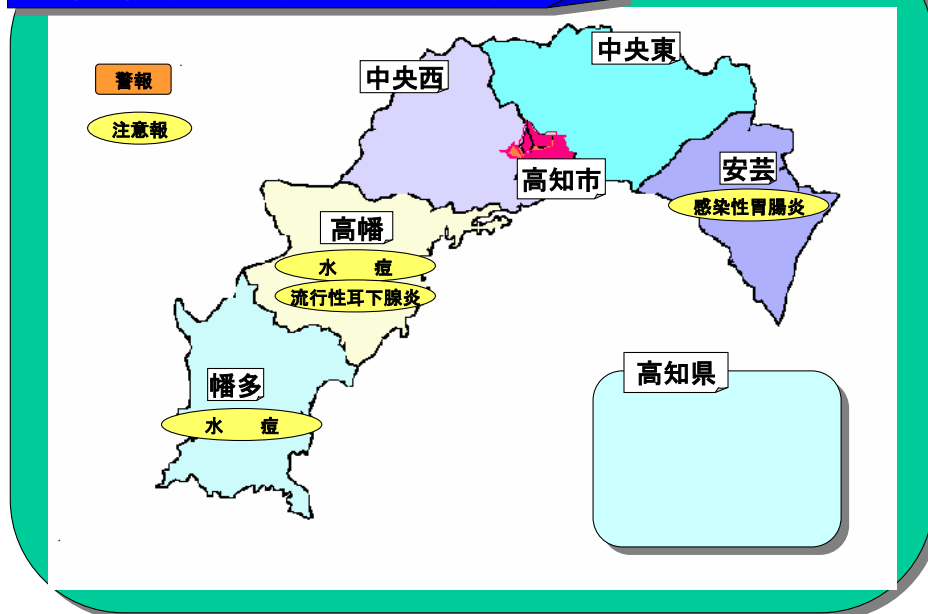
### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：なし

- ・ 週の半ばは雨となったが、後半は晴れて気温も上昇し過ごしやすかった。
- ・ 感染性胃腸炎（安芸：注意報）は安芸から高知市にかけての地域で増加し、総数は再び増加に転じた。
- ・ 水痘（高幡：注意報、幡多：注意報）は高知市、高幡、幡多で増加し、総数はやや増加した。
- ・ 流行性耳下腺炎（高幡：注意報）は昨年第51週以降1桁の報告数が続き、低いレベルで推移しているが、今週は高幡で注意報値を超した。
- ・ インフルエンザは昨年第38週に流行指標である定点当たり1.0を超し増加を続け、第48週にはピークに達した。その後は減少傾向となり、今週ようやく報告数が0となった。全国的にも減少傾向が続いており、現段階では第一波の流行は沈静化していると判断された。

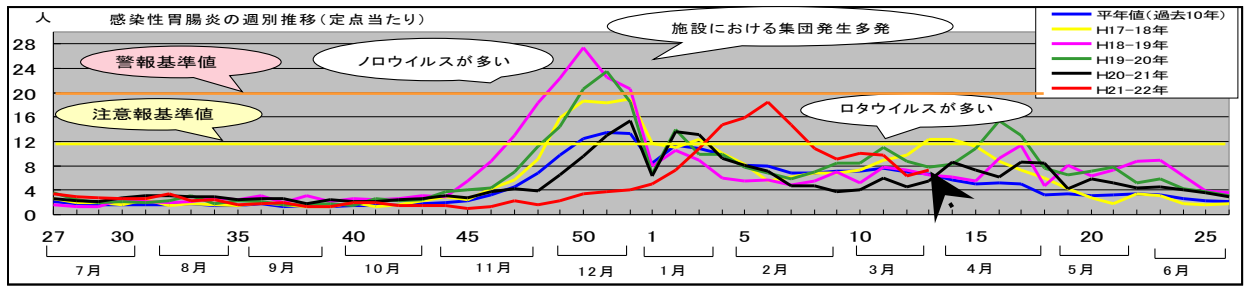


## 地域別感染症注意報・警報発生状況 第13報 (2010年3月29日～2010年4月4日)



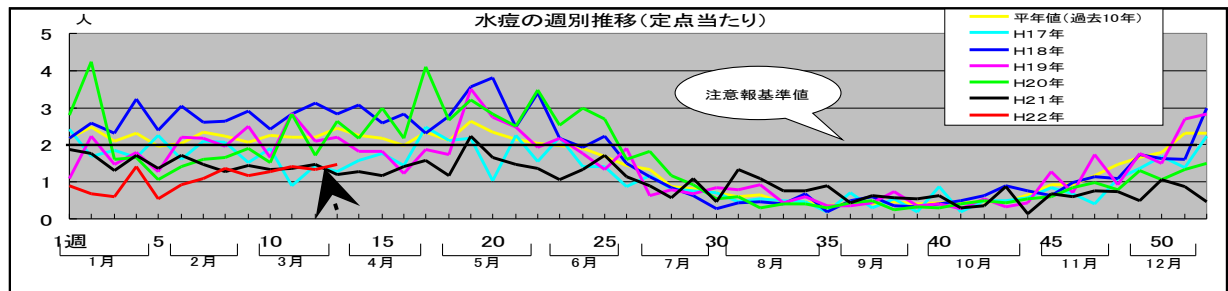
### 感染性胃腸炎：今週7.27 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

前週大幅に減少していたが今週は再び増加に転じ、安芸では注意報値を超した。今週搬入された検体からはNorovirus GII 2件, Adenovirus 40/41 1件が検出されている。安芸ではロタウイルスによる胃腸炎が増加しているとのコメントもあり、引き続き注意が必要である。



**水痘：今週1.47（注意報値：2.00 警報値：4.00）**

総数はやや増加し、高幡と幡多では注意報値を超した。例年と比較して低いレベルで推移しているが、今年に入り最も多い報告数となった。全国的にも増加傾向が続いており、今後も推移が目される。



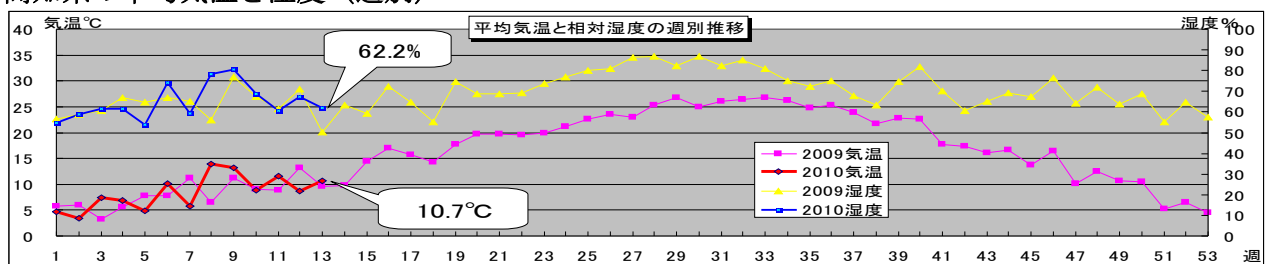
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
7	感染性胃腸炎	11歳女	高知市	Hepatitis A virus (HAV)
11	咽頭結膜熱	1歳女	高幡	Adenovirus 5
13	感染性胃腸炎	1歳男	中央東	Norovirus G II
13	感染性胃腸炎	1歳男	中央東	Norovirus G II
13	感染性胃腸炎	4歳男	高幡	Adenovirus 40/41

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 3例（59, 81, 84歳女）《高知市》（今年38例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

- 《渭南病院小児科》：アデノウイルス咽頭炎 1例（2歳男）
- 《さたけ小児科》：膿痂疹 1例（1歳男）
- 《木俵病院小児科》：感染性胃腸炎の2例は成人
- 《松谷内科》：保育園児とその母親を中心として感染性胃腸炎が流行している

高幡：

- 《もりはた小児科》：百日咳の1例（6歳女）は東浜株1280倍、山口株640倍

高知市：

- 《細木病院小児科》：Campylobacter jejuni 1例（5歳男）
- 《三愛病院小児科》：帯状疱疹 1例（5歳女）

中央東：

- 《早明浦病院小児科》：感染性胃腸炎（家族内感染を含む）が増多

安芸：

- 《田野病院小児科》：ロタウイルスによる胃腸炎が増加している

## 全国情報第11週 (3/15～3/21) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核255例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症20例（有症者11例、うちHUS なし）、腸チフス2例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎13例（\*第10週より報告数が増加し、第11週は過去3年間（2007～2009年）の週別報告数と比較して最多の報告数であった。本年は劇症肝炎の報告もあった。複数の自治体の症例において感染源としてカキが推定されている。経口感染による広域アウトブレイクの可能性もあるので注意を要すると考えられる。）、デング熱7例、日本紅斑熱2例、マラリア2例、レジオネラ症4例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎（B型）3例、急性脳炎5例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、後天性免疫不全症候群22例（AIDS 3例、無症候17例、その他2例）、髄膜炎菌性髄膜炎1例、梅毒5例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん3例

報告遅れ：腸チフス1例、パラチフス1例、E型肝炎1例、デング熱1例、レジオネラ症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

### ◆手足口病

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。病原ウイルスは、主にコクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス71（EV71）で、その他コクサッキーA6、A9、A10などのエンテロウイルスである。

臨床的特徴であるが、感染から3～5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現する。発熱は約3分の1に認められるが軽度であり、高熱が続くことは通常はない。本症は基本的には数日間の内に治癒する予後良好の疾患である。しかしながら、まれではあるが髄膜炎、小脳失調、脳炎などの中枢神経系合併症や、心筋炎などの重篤な合併症を呈することがある。特にEV71に感染した場合は、中枢神経性の合併症を引き起こす割合が比較的高いことが明らかとなってきたので、EV71が流行しているシーズンは、手足口病発症児の経過を特に注意深く観察し、合併症に対する警戒を行う必要がある。なお、急性脳炎を合併した場合には、5類感染症全数届出疾患として報告が必要である。

感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児施設における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となる。本疾患は主要症状が回復した後も比較的長期間にわたって児の便などからウイルスが排泄されることがあるが、基本的には軽症疾患であることを踏まえ、回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではない。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて手足口病をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。2010年第11週の手足口病の定点当たり報告数は0.42（報告数1,259）となり、過去5年間の同時期（前週、当該週、後週）と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では鹿児島県（2.91）、広島県（2.69）、岡山県（2.06）、鳥取県（1.95）、愛媛県（1.78）、山形県（1.33）、福井県（1.23）の順であり、西日本地域に報告数の比較的增加している県が多い。第1週から第11週までの11週間の定点当たり累積報告数は2.35（累積報告数7,124）であり、広島県（13.32）、岡山県（10.48）、山形県（10.40）、鹿児島県（9.80）、福井県（9.05）、愛媛県（6.51）、鳥取県（5.89）の順となっており、やはり西日本地域で報告数が増加している県が目立っている。累積報告数の年齢別割合をみると、発生報告の中心が5歳以下の乳幼児であることは例年と同様であり、2010年は5歳以下で全報告数のほぼ90%を占めている。

2010年第1～11週までの11週間の手足口病由来ウイルス分離・検出報告数は20件とまだ少ないが、EV71が8件と最多であり、2004年以降では2006年に次ぐ高い割合となっている。

手足口病由来ウイルスとしてはCA16の検出が最多となる年が多いが、2010年は昨年に引き続いてEV71の方が多く検出されている。例年夏季に患者発生のピークを迎える同疾患の報告数は、現時点ではまだ多くはないが、既に例年の同時期の報告数を大きく上回った状態が続いており、その多くがEV71によるものであると推測される。今後とも手足口病の推移と患者由来検体からのウイルスの検出状況には注意が必要である。

### ◆インフルエンザウイルス2009/10シーズン

2009年第19週に採取された検体から新型インフルエンザウイルスAH1pdmが最初に分離・検出され、2010年第12週までに全都道府県から30,407件が報告されている。

このうち、15,554件はPCRで検出、12,362件はPCRで検出後ウイルス分離培養も陽性、2,491件はPCRでは検出されず分離培養のみで陽性となっている。また、下気道炎（肺炎、気管支炎）2,748件、インフルエンザ脳症311件、死亡例94件が報告されている。

同期間（第19週～第12週）に季節性インフルエンザウイルスの分離・検出はAH1亜型（Aソ連型）が65件、AH3亜型（A香港型）が930件、B型が139件の報告があり、AH1pdmはこの期間の分離・検出例全体の96%を占めている。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(12週)	高知県(13週末累計) H22/1/4~H22/4/4
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ								2 ( 0.04)	1,082 ( 0.23)	2,537 ( 52.85)
小児科	咽頭結膜熱					1		1 ( 0.03)	3 ( 0.10)	458 ( 0.15)	13 ( 0.43)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	7	7	2		1	18 ( 0.60)	23 ( 0.77)	3,683 ( 1.22)	278 ( 9.27)
	感染性胃腸炎	27	58	85	30	6	12	218 ( 7.27)	191 ( 6.37)	22,869 ( 7.56)	4,215 ( 140.50)
	水痘		5	16	5	6	12	44 ( 1.47)	40 ( 1.33)	5,155 ( 1.70)	424 ( 14.13)
	手足口病		1	1				2 ( 0.07)	1 ( 0.03)	1,105 ( 0.37)	23 ( 0.77)
	伝染性紅斑			2				2 ( 0.07)	2 ( 0.07)	421 ( 0.14)	22 ( 0.73)
	突発性発疹	1		3	1	2	2	9 ( 0.30)	9 ( 0.30)	1,412 ( 0.47)	113 ( 3.77)
	百日咳			1		1		2 ( 0.07)	1 ( 0.03)	78 ( 0.03)	11 ( 0.37)
	ヘルパンギーナ			4				4 ( 0.13)	2 ( 0.07)	178 ( 0.06)	18 ( 0.60)
	流行性耳下腺炎			4		2	1	7 ( 0.23)	4 ( 0.13)	3,483 ( 1.15)	56 ( 1.87)
	RSウイルス感染症	1		9	1			11 ( 0.37)	9 ( 0.30)	1,097 ( 0.36)	746 ( 24.87)
	アフター性口内炎			3				3 ( 0.10)			25 ( 0.83)
眼科	急性出血性結膜炎									18 ( 0.03)	1 ( 0.33)
	流行性角結膜炎			1				1 ( 0.33)		334 ( 0.49)	7 ( 2.33)
基幹	細菌性髄膜炎									7 ( 0.02)	2 ( 0.29)
	無菌性髄膜炎									7 ( 0.02)	1 ( 0.14)
	マイコプラズマ肺炎									157 ( 0.34)	11 ( 1.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 ( 0.14)		10 ( 0.02)	3 ( 0.43)
計 (小児科定点当たり人数)	30 ( 15.00)	71 ( 10.14)	137 ( 12.27)	39 ( 13.00)	18 ( 9.00)	28 ( 5.60)	323 ( 10.70)				
前週 (小児科定点当たり人数)	22 ( 11.00)	49 ( 7.00)	114 ( 10.31)	52 ( 17.33)	12 ( 6.00)	38 ( 7.60)		287 ( 9.54)	41,554	8,506 ( 250.99)	

定点当たり

第13週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(12週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ								0.04	0.23
小児科	咽頭結膜熱					0.50		0.03	0.10	0.15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	1.00	0.64	0.67		0.20	0.60	0.77	1.22
	感染性胃腸炎	13.50	8.29	7.73	10.00	3.00	2.40	7.27	6.37	7.56
	水痘		0.71	1.45	1.67	3.00	2.40	1.47	1.33	1.70
	手足口病		0.14	0.09				0.07	0.03	0.37
	伝染性紅斑			0.18				0.07	0.07	0.14
	突発性発疹	0.50		0.27	0.33	1.00	0.40	0.30	0.30	0.47
	百日咳			0.09		0.50		0.07	0.03	0.03
	ヘルパンギーナ			0.36				0.13	0.07	0.06
	流行性耳下腺炎			0.36		1.00	0.20	0.23	0.13	1.15
	RSウイルス感染症	0.50		0.82	0.33			0.37	0.30	0.36
	アフター性口内炎			0.27				0.10		
眼科	急性出血性結膜炎									0.03
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.49
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎									0.02
	マイコプラズマ肺炎									0.34
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14		0.02
計 (小児科定点当たり人数)	15.00	10.14	12.27	13.00	9.00	5.60	10.70			
前週 (小児科定点当たり人数)	11.00	7.00	10.31	17.33	6.00	7.60		9.54		

## 2010年週報推移(定点当たり)

